



21世紀を担う子どもたちのために、
明るい地域社会を築きたい

学校における取り組み

(7月10日号いじめ問題アンケート結果グラフ)

設問A

いじめ問題に対する実践的な解決力を身につけるための教師の研修強化	67
いじめ問題解決に向けての専門機関との連携と組織的な対応	33
教師と保護者とのきめ細かな連携	102
いじめる側の罰則規定や措置の徹底	51
教師と児童生徒の信頼関係を築く取り組み	118
社会的ペナルティ(罪と罰)の意義を認識させる教育	64
生命の尊厳や尊重の教育の徹底	103
「開かれた学校」として家庭や地域に理解を求める工夫	36
おもいやりの心を育てる心の教育や相手の立場に立って考える人権教育の徹底	169
その他(ご意見があれば記入してください)	31

家庭における取り組み

設問B

保護者と学校、地域などとの連携で、子どものSOSサインを見逃さない努力	84
地域活動への親子での積極的な参加	25
人間としての基本的な生活習慣や態度(しつけ)を身につけさせる努力	158
日常から親と子の対話時間をつくるなど、信頼関係を築く取り組み	94
学歴に偏重する価値観の転換	55
おもいやりの心や相手の立場に立って考える態度を育てる努力	166
子どもの教育は母親の役割と考えるのではなく、家族全員の取り組みとする	43
問題が生じた初期段階で、当事者が納得するまで話し合いの場を持つ努力	37
子どものよき手本となる保護者自身の取り組み	85
その他(ご意見があれば記入してください)	28

社会における取り組み

設問C

情報化社会(特にマスコミ)の子どもに対する影響を社会全体で考え直す取り組み	106
学歴偏重社会の影響を社会全体で考え直す取り組み	107
経済優先価値観の影響を社会全体で考え直す取り組み	68
いじめや非行などに対する大人の関心度を高める取り組み	61
抜本的に教育制度を改革する取り組み	85
精神面での医学的フォローアップやカウンセリング体制の充実	65
心の教育を重視する教育制度の充実	133
地域(子どもからお年寄りまでのふれあい)ぐるみの青少年育成の取り組み	46
行政の指導力の発揮	26
その他(ご意見があれば記入してください)	19

その他の説明欄

アンケート各設問に、その他の意見という項目があります。この項目に○を記入していただいたものが、設問Aで31件、Bが28件、そしてCは19件ありました。このなかから、興味深い内容のものを紹介してみます。

Aの設問(学校)から

- ◆大学を出て、すぐに先生になる人がほとんどです。いろいろな職業を経験したり、個性豊かな人も先生として採用して欲しいと思います。
- ◆子どもを悪い意味で大切にすぎ。最近の学校の取り組みは、多様な価値観を持った子どもたちを育てよう、よく取り組んでいる。
- ◆学校より家庭のしつけの方が基本。

Bの設問(家庭)から

- ◆親の仲が悪いと、子どもにも悪い影響がすぐに出る。
- ◆必要などきに、必要なだけ愛情をかけることが大事。
- ◆しつけのために、家庭での手伝いをさせることが必要。
- ◆子どもに自信をつけさせる親の努力が必要。

Cの設問(社会)から

- ◆いじめ問題を考えるとき、あまりにも親にゆとりがなさすぎる。親は子どもと接する時間をつくる必要と理解していても、働く職場はそれを許すほど甘くはないかもしれない。しかし、時間をつくることは親としての義務であるといった強い認識をもたなければ、ゆとりなど生まれない。親の皆さん、頑張れ。

いじめ問題を考える 特集

パート2

子どもものいじめは、 大人が真剣に 取り組むことで 大きく変わる。

広報さやま(7月10日号・特集)の「いじめ問題を考えるパート1」に対し、270人の市民の皆さんから、アンケートへの回答が寄せられました。その結果を、今回の特集でご報告し、多くの市民の皆さんとともに、この大切な問題について考えていきたいと思っております。ご意見などをお寄せください。

※アンケートにご協力いただいた皆さんにおかれましては、本当にありがとうございました。

